

愛知サークル9月例会報告

2019年9月15日（日）名東小学校 参加：5名

① 教師の語り

○ 2学期始業式に全校児童に向けての語り（映像）

- 子どもの実態を把握して、それに合わせた話をしているのはよい。
- 語り方は、勢いとオーバーアクションが目立ち内容が入ってこない。
- バインダーを手に持っているため、両手が使えていない。

② 追求Ⅰ「文学教材」の追求

○ 教材解釈「ごんぎつね」（3・4年）①～③

- ひとりぼっち … 仲間や頼りにする人が居なくなった状態。孤独。

仲間 … 一緒に何かをする間柄

頼り … 困った時などに、そのものがあれば何とかやっつけていける存在

孤独 … 心の通い合う相手が1人も居ない。誰からも受け容れられない、理解されないと感じる

- ばかり … 限定された事柄を、何度もしきりに行う

しきりに … 同じ事が間を置かず何回も繰り返される様子

- この場合のごんにとっての仲間とは誰なのか。兄弟はいるのか。頼りにする人とは、どういう人か。困ったときに頼みとする話し相手・心が通じ合う人が一人もいない状態とは、どんな状態なのか。それは、例えば「学校に行っても、周りの友達も先生も話も聞いてくれない、無視されるいじめの世界ではないのか。
- いかに、ごんが「ひとりぼっち」で、そのために人に不快感を感じさせるような迷惑をかけるいたづらを、夜行性であるにもかかわらず、夜だけでなく昼までも、間を置かず繰り返しているか。というように、ごんの異常性を際立たせていった。
- ①～③の中で、中心人物の言動でいちばん「変だ、おかしい」段落を特定し、それがどれぐらい「変で、おかしい」かを出し合い、お互いに共有し、自分の身に置き換えて想像する。全員が納得したうえで、全員で追求する課題として「大問題」を設定するべきであることを確認した。

③ 追求Ⅱ「表現教材」の追求

○ 描画「立つ友」（3・4年）

- 1回目はコンテ、2回目はクレパスだが、コンテの方が柔らかさや繊細さがあるよ。
- 西岡実践の追試（5分交代で友達と交代して描き合い、課題見付をし、「ゆっくり」「じっくり」「しっかり」「するどく」をいつも念頭におく）

○ 体育「補助倒立」「大きな前回り」（全校）

- 勢いを使って行っている子や、わしづかみができていない子を、教師が止めずに流している。これまで何度も確認してきたのに、なぜ「見れども見えず」に陥るのか。
- まわるときにすぐ肘を曲げる子は、補助をつけて、たくさん練習させるとよい。
- 頭では「わしづかみ」が「核」とであると分かっているが、それをどこまでしつこく言い続けるか。流してしまっていないか。
- ポイントは、そう多くはない。どこで、指導に入るか。
- 目指す運動の姿を見て、見る目を養うことが大事。